



市議会令和6年12月定例会が、12月2日から12月20日までの19日間の日程で開催されました。開会日に、当面する市政の重要課題について、岩佐市長が所信を表明しました。抜粋して要旨部分のみを掲載します。

「災害に強く、安全・安心な阿南」の創生

令和6年能登半島地震で課題となりました長期にわたる断水時の生活用水確保策といたしまして、かねてより検討を進めてまいりました、「災害時協力井戸制度（仮称）」につきまして、令和7年1月から、市民の皆さまや市内事業者が所有している既存の井戸を対象に募集してまいります。

災害時協力井戸として指定を受けることで、共助が促進され、大規模災害時の生活用水確保につながることを期待できるため、本定例会におきまして、県の補助制度である「防災井戸登録推進事業」を活用して、申し出時の水質検査手数料などの関連予算を計上させていただいております。

伊島地区コミュニティ・プラントは、供用開始から20年余りが経過し、塩害による扉の腐食や経年による設備機器の劣化など、老朽化が進んでおり、安全で安心なライフラインとして安定的に維持管理していくため、本年度から年次的に設備機器等を

改修し、施設の長寿命化を図ってまいります。

この施設整備に係る事業費は、5年間で約1億7800万円を見込んでおり、その財源として、財政運営上で有利な辺地対策事業債を活用するため、いわゆる辺地法の規定に基づく「辺地に係る公共的施設の総合的な整備に関する財政上の計画」を策定して整備することとし、県知事への協議を経て、今定例会に関係する議案を提案させていただいております。

「地域産業が伸びゆく阿南」の創生

県においては、令和6年7月、蓄電池関連産業を徳島県の新たな産業の柱として確立していくための産業戦略である「徳島バッテリーバレイ構想」を策定し、「生産性向上」、「新事業展開・誘致促進」、「人材育成・確保」、「情報発信・普及拡大」の4つの戦略に沿った施策を展開しております。

バッテリーバレイ構想は、本市に立地する関連企業を核としており、当

「子どもまんなか笑顔あふれる阿南」の創生

全ての妊産婦、子育て世代、子どもに対し、母子保健と児童福祉が一体的に相談支援を行う機関として、令和7年4月に「阿南市子ども家庭センター」を開設いたします。

具体的には、これまで保健センターで所管していた母子保健部門をこども家庭局に移管して、「こども家庭センター」を設置し、センター長の指揮のもと、母子保健および児童福祉の双方に精通した統括支援員により、両部門の連携を緊密に図りながら、相談、支援等の業務をマネジメントしてまいりたいと考えております。

令和6年9月26日、「阿南市立小・中学校再編実施計画」を策定いたしました。本実施計画では、再編の対象となる小学校および中学校を提示しており、いよいよ本格的に学校再編が始まることになります。去る10月16日から11月22日までの間、伊島地区を含む市内15地区において地域住民説明会を開催し、実施計画の説明とこれからの取組について対話を通じた意見交換の場を設けました。

今後、地域住民説明会で寄せられたご意見を参考にしながら、再編に関係のある各校区で順次学校再編検討会を立ち上げ、保護者をはじめとする学校関係者間で、これからの学校の在り方について十分に検討することと合意形成を図ってまいります。

そして、次のステップとして、合意が得られた学校間での協議を進め、順次、学校の具体的な再編に着手してまいります。

先行事例として、令和7年4月から椿地区の中学校の生徒は、阿南第二中学校を学びの場とする予定となっております。あと3カ月余りとなった椿町中学校での学校生活がより充実したものとなるよう配慮するとともに、椿町中学校で培ってきた学校文化や歴史をしっかりと継承できるように取り組んでまいります。

「歴史・文化とスポーツでにぎわう阿南」の創生

史跡若杉山辰砂採掘遺跡整備事業について、昨年度における史跡全体の整備基本設計書の策定に続き、本年度は、次の段階として、史跡内外エリアの整備実施設計書を策定中であります。

具体的には、まず史跡内に進入するための橋脚の設置、また、史跡内の辰砂鉱石の粉碎作業を行っていたと推測されます現状段々畑エリアの園路整備、そして説明看板の設置に関する詳細な設計を進めております。

本遺跡は、全国的にも珍しい弥生時代の辰砂採掘遺跡で、全国の歴史ファンからも関心をもたれている遺跡であり、遺跡の見学等の要望を多く頂いておりますことから、本市としまして早期の整備工事に着手できよう努めてまいりたいと考えております。

構想を本市のさらなる産業振興策および地域振興策として推進していくことで、本市の飛躍に向けた大きなチャンスになるものと捉えております。

こうしたことから、去る10月28日、関係部署で構成する「組織横断的な実働チーム」として、本市における「徳島バッテリーバレイ構想推進プロジェクトチーム」を発足したところであります。

第1回目のチーム会議では、構想推進の重要性について、改めて認識共有を図るとともに、「企業用地の確保」や「蓄電池関連教育の実施」、「企業誘致パンフレットやPR動画の作成」など、取り組むべき具体的な実践内容を確認したところであります。

今後とも、当構想の推進に向け、県との緊密連携のもと、チーム一丸となつて取り組み、本市における雇用創出や地域経済の活性化につなげてまいります。

「健康でひびく優つ阿南」の創生

本市においては、令和6年10月の

12月27日にJ Aアグリあなんスタジアムで「野球のまち阿南ベースボールフェスティバル2024」現役プロ野球選手からのプレゼント」を開催いたします。

当フェスティバルには、本市出身の現役プロ野球選手である、オリックスバファローズの杉本裕太郎選手や中日ドラゴンズの森山暁生選手のほか、北海道日本ハムファイターズの河野竜生選手や読売ジャイアンツの増田大輝選手、東京ヤクルトスワローズの武岡龍世選手など本県出身の現役プロ野球選手も集結し、公開自主トレやトークショー、小学生を対象にした野球教室などを行います。

「地域の個性ときぎずなが輝く阿南」の創生

本市では、令和8年度から令和12年度を計画期間とする「第4期阿南市地域福祉計画」を策定するに当たり、「気づきから築きへ」暮らしたい阿南市をわたしがつくる」をテーマとし、高校生世代を対象とした、「ユースサミット KIZUKI」を開催いたしました。

「ユースサミット KIZUKI」は、阿南市の未来を切り拓く若者世代の好奇心と主体性に働きかけ、本市のこれからの福祉行政の「めざす姿」を検討し、今後の施策の展開につなげることに、若者世代に施策形成の過程に参画する「楽しさ」と「達成感」を感じてもらい、「コミュニティの芽」を育むことを目的に実

路線バス運行ダイヤの見直しに伴い、廃線となった大湯線および新野線の代替として「予約型乗合タクシーの実証運行」を実施しております。

大湯線の代替として新たに開始しました「大湯地区予約型乗合タクシー」は、11月20日現在の利用登録者数は37人となっており、利用者の方からは「バスより便数が増える時間に余裕ができた」、「外出が増えるきっかけになった」などのご意見をいただいております。

また、令和5年10月から実証運行を実施しております新野地区につきましては、11月20日現在の利用登録者数は45人となっており、10月の延べ利用者数はバス路線廃止前の9月と比べて約2倍となっております。

今後におきましても、実証運行により得られた結果をもとに、タクシーを活用した施策や公共ライドシェア等の新たな交通モードの構築に向けた検討を進め、本市にふさわしい効率的かつ効果的な交通モードの導入実現を図ってまいります。

施したものであります。

当サミットは、令和6年7月から8月にかけて2回開催し、第1日目には、「新たな「気づき」のきっかけをつかみ、わたしが暮らしたい阿南市について考えを深める」ことを目的とし、2日目には、「「気づき」から「築き」へ」と題し、高校生の気づきやアイデアを具体的なカタチへと築き上げてもらったところであり、その結果「世代を超えてつながる、明るく、楽しいまち」と「バズル！映える！駅前が地域も学生も大人も企業もみんなを学生がつなぐ・届けるまち」という、素晴らしい提言を取りまとめたいただきました。

この貴重な場には私も参加し、阿南の明るい将来を願う若者の熱い心を肌で感じることで、このような「若者ならではの感性」を何としても市政に生かしたいという想いを温めてきたところであり、この度お示ししました基本構想の新たな「都市像」である「輝く個性を育む、自然と調和した産業都市 阿南」は、その反映の一つであります。

今後におきましても、「わがまち予算」の早期具現化をはじめ、暮らしたい阿南市を自分たちで考えてもらい、「カタチ」にして展開できるような、市民参画のまちづくりに全力で取り組んでまいります。

全文は、市ホームページで公開しています。また、後日作成する市議会会議録は、市立図書館等で閲覧することができます。